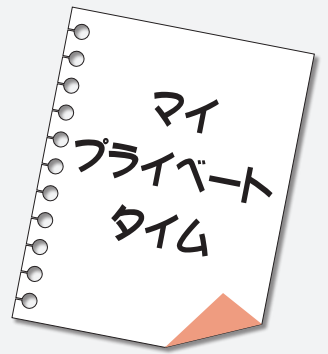


“一度は行ってみたい中津市”を目指して



なかつ 中津市長(大分県) **新貝正勝** しんが いまさ かつ

Masakatsu Shingai

座右の銘 「二隅を照らす」

「二隅を照らす」とは自分自身が置かれたその場所で精一杯努力し、明るく光り輝くことを意味し、天台宗を開いた伝教大師最澄の言葉といわれています。

私は昭和19年2月に満州の奉天で生まれ、昭和21年に日本に引き揚げてくることができず。いわゆる中国残留孤児と同年代です。引き揚げ時の私は、食糧もなく栄養失調から骨と皮ばかりで、とても生きて帰れるとは思えなかったとの事。母親の話では、枯木のように軽かったのでおぶって帰ることができたとの事、人の運命とは分らないものです。

また、父からは「真面目は最後の勝利」という事を幼い時から教え込まれ、今も



「中津城たにし祭」で甲冑を着る筆者。葉隠砲術隊と(左から2人目)

「真面目に生きる」という事を信条にしています。満州からの引き揚げという体験から、国が滅びるとはどのような事を意味するのか、民族とは何か、国境とは何か、平和とは何か。国際的な視点、各国の歴史、自国の歴史、等々について深く考えるようになりました。

大学卒業後は住友銀行に就職し、外国為替などを取り扱う外国係で勤務しました。銀行は激務ではありませんが大変面白く、私の人生にとって貴重な日々となっていました。

しかし、国家的視点、国際的視野から物事を考えるという点からは何か飽き足りないものを感じていました。そこで、国家公務員試験を受け直し、当時としては人の嫌がる防衛庁に入庁しました。今日では防衛庁も防衛省に昇格し、世間の見える目も変わって来ましたが、当時は常に日陰者の存在で、名刺も差し出せないといった状況でした。

防衛庁在職中、米国のハーバード系の大学院に留学し、また各国の国防省や外務省、国連の難民支援、PKO等々に関連する仕事に携わることができ、大変仕合わせだったと思っています。

NHK大河ドラマ「軍師官兵衛」

私は市長選挙の公約に観光振興、スポーツ振興を掲げて来ています。これはアメ



黒田官兵衛資料館 入館者5万人達成イベント(平成26年3月23日)で記念撮影

リカやヨーロッパ諸国を見てきた経験から、これらが大変重要だと考えているからです。そして観光振興は、単に名所を見学する観光だけでなく、スポーツ観光、企業観光、福祉観光とさまざまなものがあると考えています。スポーツ観光では全国から集まる小・中学生のサッカー大会、水上スキー・ウェイクボード大会。ダイハツ九州(株)やTOTO(株)、ルネサス(株)の工場を見学する企業観光。福祉観光では福祉の先進地である中津市には全国から多くの人が研修や視察に訪れています。

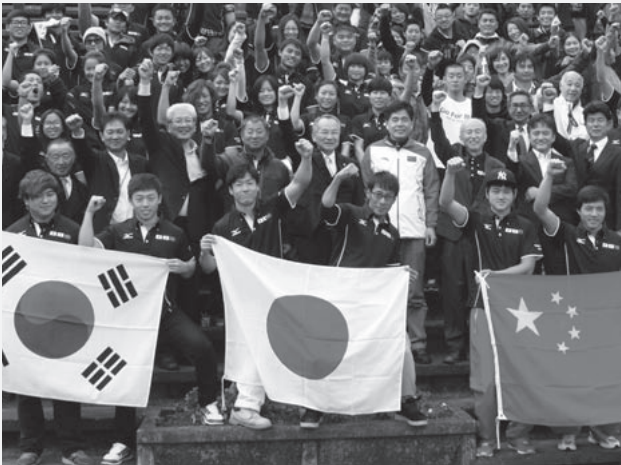
また、名所旧跡の福澤旧居や羅漢寺、景勝地耶馬溪など多くの観光資源にも恵まれています。羅漢寺の五百羅漢の石仏群は、先般日本最古のものであることが

立証されました。

さて、NHKの大河ドラマ「軍師官兵衛」が始まりました。実は中津城は黒田官兵衛が最初に築き、細川忠興公がさらに堅固なものとした城です。この城郭は近世城郭の中では九州最古のものとされています。

大河ドラマ「軍師官兵衛」放映に合わせて1月19日にオープンした「黒田官兵衛資料館」は5月で来館者が10万人を突破したほどの人気です。今、中津市には本当にたくさんの方の観光客に来ていただいております。大変感謝しています。NHKの大河ドラマに取り上げられた事が如何に大きな効果をもたらすものであるかを実感し、有難く思っています。

また、福澤諭吉先生の福澤旧居や福澤



2013日・中・韓親善水上スキー・ウェイクボード選手権大会(前段2列目中央)

記念館への来館者も例年の4倍を超えています。福澤記念館には昭和59年に福澤諭吉先生が一万円札の肖像として取り上げられた最初のA-1B号券と、第2回目の平成16年のA-1B号券が並んでいます。昭和59年のA-1A号券と平成16年のA-1A号券は日本銀行に保管されておりますが、このようにA-1A号券に次ぐA-1B号券が二つとも保管されているのは中津市の福澤記念館だけです。

「マイプライベートタイム」と問われて

さて、「趣味」は「健康法」という事になりますといささか答が出しにくい状況です。市長就任後、特に平成17年の市町村合併後は、土、日もなく働き続けているというのが実情です。東京にいたころはゴルフ、テニス、詩吟、山歩きなどが「健康法」でしたが、最近はそういった時間がとれません。土、日は必ず旧中津市や旧下毛郡の4町村において何らかの行事や祭事が開催され、どれも市長が出席する事が必須となっております。むしろ同じ日の同じ時刻に開催される場合は心ならずも他方を断るとい状態です。恐らく多くの市長さんがこの様な日々を過ごされることと思えます。

「わが郷里中津市を良くしたい」との一心で古里中津に帰ってきてから早や11年。幼少から高校時代までの17年間と通算し

て、約30年が中津での生活となりました。道路や地域の事柄で、昔からの変遷については市の部課長が知らず、市長が部課長に教えることが度々です。

今後は「眠れる宝」である農業、林業、畜産業、そして水産業といった第一次産業の大改革を果たしたいと考えています。そして少人数で大規模な経営を行い、1人で年収約1000万円の所得が挙がる事を目指しています。夢みたいな話と笑う方が多いと思いますが、私は実現可能だと考えています。中津市山国町では農業生産法人を設立し、今年4月1日から農地、耕作放棄地を集約し少人数大規模経営の一步を踏み出しています。

そして、これらの集約化を勇氣を持って実現したいと決意しています。



国の重要文化財に指定される羅漢寺の「五百羅漢」